

今後のまちづくりに 関する意見集

釧路市

平成22年9月

「今後のまちづくりに関する意見集」について

市では、合併後5年を迎え、合併時に目指したまちづくりが、予定どおり進んでいるか現状をまとめた「合併後のまちづくりの現況」を本年5月に作成し、これをもとに、市民の皆様から今後のまちづくりに関する意見募集を行いました。

本書は、今後のまちづくりに関して市民の皆様から寄せられたご意見、ご感想などをまとめたものです。

市としましては、寄せられたご意見、感想などを今後の市政運営に活かしたいと考えています。

今後のまちづくりに関するご意見・感想(要約)

1 住民サービスや負担に関すること

- 合併後もサービスや負担があまり変わらなかったが、合併しなければ、そのまま続けられたか疑問だ。水準を維持することが大変な時代ではないか。
- 合併してから、湿原の風アリーナや阿寒湖畔のまりむ館、音別に特養もできた。学校の改築も進んでいる。各分野の住民サービスが向上したのは、合併への国の支援があるからできたことが多いと思う。
- 合併当時の課題調整も進んでいると思うが、阿寒・音別地区の住民から、未だに各種サービスの格差についての意見を聞く。合併検証で、こうした分野も検証が必要。
- 税金等の相談もしづらくなった。
- 合併後は特に不便なことはない。市内どこでも行政手続きができるため、便利な面もある。税金に関しては、行政センターに知り合いが多く事情を話しづらいと言う方も、本庁で納入相談できるようになった。
- 合併後はキメの細かいサービスが出来ていない。行事や会議を釧路地区でやるため負担も多くなった。
- 窓口業務については、合併直後は申請などの時に、本庁と行政センターの連絡に時間がかかり、待たされる時間が長かったが、最近はスムーズで窓口の対応も明るく感じ良かった。



2 健康・福祉・医療に関すること

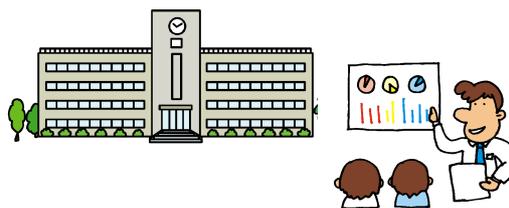
- 医療では、ドクターヘリや急病センターができた。医師不足の中、市民の安心が守られている。
- 医師不足のない医療体制、安心して出産できる環境と救急医療体制、高齢者の健康増進と介護福祉施設等の整備が必要。
- 高齢化により介護サービス利用者も増えている。釧路地区に比べサービス項目は少ないが、事業者が来てくれるので不便はない。阿寒病院が介護療養を提供しているので、医療が必要な方もショートステイができ介護者が大変助かっている。今後も地域の阿寒病院が存続してもらいたい。



- 社会福祉協議会では、阿寒地域の地域特性を活かした事業を合併前から実施してきており、社会福祉協議会には、今後も継続していただきたい。
- 総合福祉センターが閉館になるため、新たな福祉の拠点を作ってほしい。

3 教育・文化に関すること

- 都市部では様々な学習・鑑賞機会に恵まれているが、地域ではそうした機会が少ない、合併後の一体感醸成の点からも巡回展の開催やバス使用した機会の拡大が望まれる。
- 阿寒中学校がとてもきれいな校舎となり、
良い環境、子供たちも伸び伸びと学んでいる。
幼稚園は、親の収入減で母親が働くことも増えている。また、ひとり親の方もおり、若い世代が住むには、幼稚園の延長保育があると良いと思う。



- 阿寒地区の高校生は、学年の半分が釧路地区の高校に行くが、バス代もかかり負担が大きい。部活の帰り時間にバスがあると助かる。
- 阿寒地区の芸術祭は、文化協会の補助のみで行っているが、市からの文化協会に対する補助金が削減され、年々事業予算減で運営も不安。補助金の出し方も地区毎に異なるので統一してほしい。
- 地域の青少年健全育成について、総じて音別地区の子ども達は、しっかりとしており、特に目立った問題行動もない。これからも地域一体となった健全育成が図られるべき。

4 産業・経済に関すること

- 合併前の釧路と阿寒が別々に観光PRをしていた時に比べ、自然と温泉の阿寒と炉端や幣舞橋の釧路を一体にPRすることで、観光地としての厚みが増した。今後も新鮮な水産物や農産物、体験観光をアピールして観光振興を進めてほしい。
- 合併後も人口減少が続いている。安心して生活や就職できる生活環境や雇用対策が必要。
- 音別の木材を使った施設の建設や、学校給食の地場野菜や魚の利用といった地産地消が行われているが、さらに3地域の資源を使った産業振興を図ってもらいたい。
- 地場産業に携わる後継者の育成と雇用の拡大、生産者と消費者の直接販売（野菜や魚介類等）による消費拡大を図るなど、各地域に応じた産業の支援と振興が必要。
- 中心市街地の空洞化や空店舗対策として、百貨店の誘致や出店支援等の検討が必要。
- 釧路湿原国立公園、タンチョウ、阿寒国立公園、まりも等、国際交流の玄関口である釧路空港等を利用した観光啓宣活動が必要。

- 釧路市街地の観光内容が乏しい、水産都市としてMOO周辺に水族館増設はどうか。
- 阿寒・音別地区は農林業などの一次産業主体であり、景気や後継者問題に大きく影響され、地域経済を左右する。企業の再配置・誘導など行政の積極的な係わりが求められる。
- 地域経済の推進や地場産品の製品化について、例えば、野菜の規格外品を加工することで雇用の推進になるのではないか。この様なことを推進し、未来を拓くまちづくりをお願いしたい。
- 農政全般の取組に力が入っていない。
- ハローワークだけでなく、行政センターでも求人情報などが分かると良い。
- 商工会の合併について、商工会員に対するサービス機能維持のためにも、行政による調整をお願いしたい。
- 中小企業に対する対策が、予算不足という名の下に後退している。

5 都市基盤に関すること

- 合併後の均衡ある都市基盤整備で、阿寒・音別地区に重点投資されているように感じる。ある面仕方がないが、低成長、人口減少時代を迎える中、適切な建設計画の策定が求められる。
- すべてが釧路地区中心で阿寒地区は置かれた感じがする。
- 他地区に比べて音別地区が取り残されている感じがする。事業量についても、格差があるように感じる。
- 緑化を推進し、花と緑のあるまちづくり、除雪と凍結路面の安全サービスの推進が必要。
- 中心市街地の空洞化対策として、駅裏や中心市街地周辺に市営住宅建設等の施策が必要。
- 行政、医療、福祉、教育、文化、商業、防災等の都市的機能の充実と周辺市町村との連携が必要。
- 音別駅前開発構想は、合併後どの程度の協議、検討がなされているか。
- 音別は民間賃貸住宅が少なく、若年層の流出が続いている。空家公営住宅等の活用など、定住対策は喫緊の課題と感じる。少子高齢化の流れが加速している。

6 行政・議会に関すること

- 地域協議会で市民協働推進指針を検討したが、各地域に市民協働が浸透するきっかけになったのではないかと。また、職員の人事交流で、市職員の意識も変わったように思える。
- イベントを企画開催し、市の協力で計画通り実行できた。ただ、担当各課に同じ書類を提出しなければならず、使用許可にかなり大変な労力を必要とした。市関連施設等使用承諾に関して、もっと効率良い仕組みを。
- 今、「新しい公共」や「協働」が行政と市民活動の間でもキーワードになっている、その具体的な実践をどのように進めていくのか、まだはっきりしていない状況。市とNPO法人などが一緒に「協働」に関する研修を進めていけるような場を設けていただきたい。
- 生活圏などが同一化している釧路町や白糠町との合併が醸成される環境づくりに期待する。
- 行政と地域住民の連携において、もう一歩踏み込んだ形で、情報を公開し、地域の声を取り込み、地域の活性化に取り組んではどうか。
- 行政センターの人員が減るとともに親しみが薄れた感がある。行政センターだけで決断されず、本庁に聞いてからが多い。
- 今の世の中なので、現状ではしょうがない面もあるが、すべての点で合併してからは良くなったと思えない。議会についても議員が減少し、阿寒のことを知ってくれている議員がいなくなる不安もある。
- 対等合併と言いながら、現状は吸収合併ではないか。もっと阿寒地区やセンター長に実権を持たせるべき。
- 各団体組織、委員会等の会議すべてが釧路地区中心で開催されるので、負担が大きい。時には他地区で開催するなどの配慮もして欲しい。
- いろいろな組織や団体の長もすべて釧路地区になっている。新聞等の行事掲載も、阿寒、音別地区は少ない。
- 行政センターの駐車場のスペースが少なく、冬季は除排雪もされていないため、来庁者にとっても不便。又、職員の接遇も他の市町村と比べると未だ改善の余地がある。
- 職員の中には勤務態度を見て怠慢を感じることも多く、残念。
- お金のからむことについてシビアになった。
- 合併後の23年度から黒字という説明を受けていたのに、どうしてお金が足りないのか説明不足。
- 金のない場合は知恵を出すことが必要。

- 今は音別選挙区選出の市議がいるが、今後、議員定数、選挙区の変更による影響がどう出るのか住民の大きな関心事である。今後より一層、行政センター、教育事務所の機能存続が重要になる。選挙の結果によっては地域協議会の必要性も検討されるべきである。
- 阿寒地区から市職員が釧路地区に移り住むなど、人口減少に拍車がかかった様に思える。特に、本町地区のアパートの空きが目立つ。行政からの対応を。

7 コミュニティ・交流に関すること

- 阿寒湖温泉のホテルを老人クラブの湯治運動に利用しているのはよい。阿寒・音別地区の老人クラブとの交流も図られている。
- 市のごみ収集は適切に実施されている。道路周辺のごみは、町内会や老人クラブのごみ拾い奉仕活動等で減少傾向にあり、住みよい町づくり意識が定着してきている。
- 文化・スポーツの各団体の補助金がカットされている。そのことが、各団体の活動力を弱めていることとなり、コミュニティが薄まっているように思える。
- 交流の場であった総合福祉センターが使用できなくなり、困っている。
- コミュニティセンターの様な交流の場所が欲しい。
- 私達の団体も統合し、活動している。「地元活動優先」の最小限の活動での統合であったが、全体での行事も増えており、釧路・音別地区との交流も活動も活発になったことは良いが、交通費の増で困っている。
- 阿寒町行政センター予算を増やしてくれたら住民活動をしている私たちも助かる。阿寒町が一生懸命やってきた「花いっぱい運動」など、もっと阿寒町の歴史や住民活動を知って欲しい。敬老会も阿寒町のやり方で続けて欲しい。
- 「くしろ市民大学」の市長講演に例年バスが出ていたが、無くなった。遠隔地の市民に配慮してほしい。
- ボランティア的な要素で積極的に活動している音別地区の各種団体等、特に音別地区のみに存在する団体への補助金、助成金が年々減額され、地域振興に支障をきたしている。